

高規格堤防整備についての基本的な考え方

「高規格堤防とは」、「高規格堤防を整備する首都圏・近畿圏のゼロメートル地帯等の特徴」を踏まえ、高規格堤防整備の基本的な考え方は以下のとおりとなる。

- ① 人口・資産が高密度に集積する首都圏・近畿圏の大部分はゼロメートル地帯などの低平地にある。人口が高密度に集積しているにも関わらず、洪水氾濫時に避難場所となり得る高台が少ないことから、堤防決壊によって、多くの人命が失われることが懸念。このような壊滅的な被害や経済的な被害を回避する必要。
- ② 高規格堤防の整備区間については、平成23年に「人命を守る」ということを最重視して従来の約870kmから約120kmに絞り込み、深刻な被害が想定されるゼロメートル地帯等に限定。
- ③ 堤防決壊の要因となるのは「浸透」、「侵食」、「越水」であるが、施設の能力を上回る洪水等に対し、決壊を回避できるのは、信頼性・確実性の面から高規格堤防が唯一の手法。決壊を回避するために天端や川裏側の補強等により堤防強化する手法も考えられるが、施設の能力を上回る洪水等に対し、信頼性・確実性において決壊を回避することが困難。
- ④ 高規格堤防の整備は、沿川のまちづくり等と連携し、関係者の合意形成が図られた地区について実施してきていることから、整備には一定の期間を要するが、一部区間での整備や暫定的な断面での整備であっても、「浸透」、「侵食」、「越水」に対する堤防の安全性は格段に向上。また、氾濫時の避難場所や復旧活動等の拠点としての効用を発揮するとともに、木造住宅密集地域や狭隘道路の解消などによる良好な住環境を提供。